

令和2年度使用小学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名 竹原市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	東京書籍株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ○手引きに、具体的内容に関する「問い」を設定し、学習を進めるための「手だて」をもとに解決していくことで、課題解決型学習を進めている。 ○各単元の学習で身に付けたい力を「言葉の力」として示しており、どんな力を身に付けるのかが明確に分かる。また、「生かそう」も各単元末に明記し、言葉の力の活用を促している。 ○「ノートの作り方」のページがあり、工夫されたノートを例示し、学習を振り返ることの大切さを示している。
書 写	東京書籍株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ○「書写のかぎ」を核として、課題解決型の単元構成になっている。また、巻末に「書写のかぎ」がまとめられており、押さえないければならない内容が明確である。 ○「書写のかぎ」が虫食い問題で記述され、文字を整えて書く原理原則の定着を図っている。 ○書写で学習する用語をインデックスとして常に示し、学習事項と既習事項が一目で分かる。
社 会	日本文教出版株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組む工夫として、「学び方・調べ方コーナー」により、「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の3つの観点でコーナーを設定し、場面に応じた具体的な学習活動について示している。また、単元ごとに「学習課題」を示し、見開きページごとに「問い」を提示しながら、調べる学習を進め、学習課題について話し合う活動を設定している。 ○本文以外の記述の工夫として、「学び方・調べ方コーナー」により、「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の3つの観点でコーナーを設定し、場面に応じた具体的な学習活動について示している。 ○言語活動の充実を図るために、ノートの書き方についての言語活動が示されおり、ゴールイメージをもつためのノート例と具体的な言語活動の進め方の説明がある。
地 図	株式会社帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組む工夫として、タブレットパソコン等を使ってクイズや資料等が検索できるよう、ページのタイトル横に表示されている「二次元コード」読み取ると、コンテンツメニューを見ることができるようになっている。 ○我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫として、「日本とそのまわり」で日本の領土と領海、領空、接続水域、排他的経済水域について図で示すとともに、東西南北の端、日本固有の領土について写真を掲載し説明をしている。 ○思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫と

		<p>して、「地図マスターへの道」のコーナーを設定し、レベル1～3までのクイズが出されている。レベル3では、児童が絵図や資料を使って、理由や違いを説明させるようにしている。</p>
算 数	株式会社 新興出版 社啓林館	<p>○単元の最初に、「準備」としてこれまでの学習の復習があり、それらを基に学習を進めていくという流れが分かりやすい。</p> <p>○単元のまとめは、振り返りをしっかりしていくことによって、答えが出ればいいのではなく、どうやって考えたかを追究していく内容になっている。</p> <p>○いくつかの単元の間「復習」のページが設けられており、間違えやすい問題には星印をつけ意識して取り組ませることで、学習の定着を図れるようになっている。</p>
理 科	株式会社 新興出版 社啓林館	<p>○問題に対するまとめを示すとともに、単元末の「ふり返ろうまとめノート」で単元全体の学習内容を分かり易くまとめている。さらに「たしかめよう」では、単元の学習内容を振り返る問題を解くことで定着を図っている。</p> <p>○単元の始めに「はじめに考えてみよう」があり、課題を見つけられるようになっている。</p> <p>○巻末の「理科につながる算数のまど」に、理科の学習と関連する算数科の内容があり、教科間のつながりを示している。</p> <p>○巻末に、「植物探検カード」(第3f学年)、「雲の観察カード」(第5学年)等が掲載されている。</p> <p>○巻末に「表す」というコーナーを設置し、「記録カードのかき方」「ノートのまとめ方」「話し合いのしかた」など言語活動の充実を目指すような内容を載せている。</p>
生 活	株式会社 新興出版 社啓林館	<p>○巻末の「がくしゅうずかん」には、生活の学習が楽しくなるヒントを集め、課題設定、情報収集、整理・分析、表現の仕方など、自主的・協働的な学び方を示している。</p> <p>○上巻の「すたあとぶっく」の活動の写真により、遊びが学びにつながっていることが分かる。</p> <p>○シンキングツールのイメージマップやXチャートを使い、話し合いのヒントや考えを広げたり深めたりする方法を紹介している。</p>
音 楽	株式会社 教育 芸術社	<p>○児童の気付きを引き出すために、キャラクターの吹き出しに学習のポイントが記載されている。</p> <p>○1年間で学習する内容が、「音楽の木」として「歌う・きく・演奏する・つくる」の4領域で全学年共通で整理されて示されている。</p> <p>○巻末の「振り返りページ」に、各学年で学習した音楽を形づくっている要素が、関連するページ番号とともに記載されている。</p> <p>○歌唱表現における音楽科の特質に応じた言語活動として、表したいことや意図を言葉で伝え合う場面が設定されている。</p>

<p>図画工作</p>	<p>日本文教出版株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「ひらめきポケット」のページでは、「見る」「さわる」「組み合わせる」等、表現活動のもとになる「ものの見方」「とらえ方」を工夫することの大切さを伝えようとしている。 ○各学年の発達段階に合わせて、現実にあるものや起こったことをもとにしながら、ないものや見えないものを想像させるページを設けている。「表現したい」という意欲を持たせるよう工夫している。 ○グループで思い出を表現する題材を設定している。何をどう表現したいかを考える段階で、対話が生まれるように仕組みられている。 ○ICT機器を活用した作品作りを数多く紹介し、プログラミング的思考を用いた多様な作品作りの発想を引き出す教材を配置している。 ○振り返りの例が示されていることで、どのような観点で表現すればよいか分かりやすく、言語表現の育成が期待できる。
<p>家庭</p>	<p>開隆堂出版株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実習や製作のページには、基礎的・基本的な技能の定着を図るため、「できたかな」の自己評価の囲みを11か所掲載するとともに、ステップごとに「学習のめあて」に沿って自分でチェックできるように「ふり返ろう」の囲みを掲載している。 ○家庭科の見方・考え方を「生活の見方・考え方 4つの視点」として図化してしめしている。 ○新設の「A家族・家庭生活」の「(4)生活の課題と実践」に対応したページを「レッツ トライ 生活の課題と実践」として第5学年と第6学年の間のページに掲載している。 ○各教科等の学習内容との関連については、関連マークを示し、教科、学年、単元概要を示している。 ○学習上参考となる資料を「安全」「環境」「～に関わる人」「参考」「防災」「伝統」「発展」「QRコード」等で示している。
<p>保健</p>	<p>株式会社光文書院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の終わりに「学習のまとめ」を設定し、学習した内容を振り返り定着させる項目がある。また基礎的・基本的知識において大切な部分は太字で書かれている。 ○巻頭で情報リテラシーの項目を扱い安全に調べ学習ができるように配慮されている。また教科書内の各所にQRコードが配置されており、見たい実験動画や関連サイトに直接つながるように工夫されている。各章のはじめのページに四コマ漫画でその章の課題について紹介し、興味をもたせる工夫をしている。 ○特別の教科道徳をはじめ、他教科、他領域の学習との関連が、各学年・各章で図られ、多く取り上げられている。また、発展的な学習の具体例や事例が多く取り上げられている。

		<p>○学習者のことを考え、自分の考えを記入する欄の行間を広くすることで誰でも記入しやすくなるように工夫されている。</p> <p>○習得した知識を活用して考える活動を多く取り入れ、自分の生活にあてはめて考える活動「学んだことを生かそう伝えよう」を毎時間の最後に設定している。</p>
英 語	東京書籍株式会社	<p>○Picture Dictionary という別冊があり、単語や基本的な表現がイラスト入りでまとめられている。児童が授業や家庭学習において主体的に活用することができる。</p> <p>○どのページにも教科書下部に Small Talk があり、話すこと・聞くことに無理なく継続的に取り組むことができる仕組みになっている。</p> <p>○英文の中で共通する単語や変な単語に色分けがされており、児童が共通点や相違点に気が付きやすい。</p> <p>○導入部分に動画を見ることができるようになっている。</p>
道 徳	株式会社 光文書院	<p>○各教材において、児童の経験や生活の中から「問い」がもてるように、さまざまな設問の工夫がされ、児童の考えを広める視点から問いかけを行い、児童が多角的・多面的に考えられる構成となっている。また、終末で学習内容を振り返ることによって、考えや心の変容を実感することができる。</p> <p>○「道徳ノート」の例を提示するとともに、巻末自己評価シート「学びの足あと」を記入することで、授業後の心の動きや学びを継続し道徳性をより深め育み、書き溜めることにより児童自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見つけていく学習に取り組むことができる。</p> <p>○コラム「みんなでやってみよう！」が全学年にあり、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動を提示している。</p>